

令和7年3月吉日

保護者の皆様

地域の皆様

世田谷区立中丸小学校

校長 橋口 直美

令和7年度に向けた改善策

(学校関係者評価委員会評価結果の報告を受けて)

世田谷区では、「信頼と誇りをもてる学校の創造」をめざし、学校関係者評価を実施しています。本校も、学校関係者評価委員会を開催し、各委員の皆様から、関係者評価の分析をふまえて、さまざまな視点からの評価や率直なご意見をいただきました。先日、学校関係者評価委員長 細川 太輔様より、令和6年度の学校関係者評価結果を受けて以下の提言をいただきました。

- ・昨年度より、保護者アンケートの提出率が前年度より上昇した。(63.5%→70.7%)
- ・児童の評価は高いのに、保護者で低い項目がいくつかある。子どもが家庭で自然と学校のことを話すとそのギャップが解消されると考える。様々な方法で保護者が学校のことを理解し、興味をもってもらえるような工夫が必要であろう。

<総合所見>

今年度は、児童による肯定的評価は増加傾向にある項目が多くあったが、保護者・地域による評価は変化があまり見られなかった。学校の活動が家庭に伝わるように、子どもが自然と家で話すようになるように、充実した教育活動を引き続き行ってほしい。

学校関係者評価委員会からの提言

① 総合的な学習の時間の活性化

児童の肯定的評価が上がった原因に、総合的な学習の時間の存在が挙げられる。

引き続き地域に根ざした総合的な学習の時間を進め、児童の達成感が高まる学習を工夫してほしい。

② 地域や保護者の学校参加

保護者や地域が学校に興味をもっと持つてもらうことは重要である。教育は家庭、学校、地域で連携して行われるものであるからである。SNSを通じた発信や、子どもの口頭での連絡、学校からの手紙など現状でも様々な工夫がなされているが、まだ数値には表れていない。教育の第一責任は家庭にあり、そのためには学校と連携していくという姿勢を保護者に理解してもらう努力を引き続き行ってほしい。

以上の学校関係者評価委員会からの提言を受けまして、令和7年度の改善策をご報告いたします。

改善策① 生活科・総合的な学習の時間を中心とした達成感が高まる学習

生活科・総合的な学習の時間では、「あれをやりたい」「もっとこうしたい」という子どもの思いをもとに学習活動をつくっていくが、次年度は、さらに子ども主体の活動の設定をし、探究のしがいのあるもの、自己の生き方につながる学習活動、野沢・下馬地域の特色や人材を活かせる学習活動を行っていく。

改善策② 体を動かす取組の促進

令和6年度、運動委員会児童が、休み時間、中丸の子どもたちが校庭で遊べる遊具を企画、実現できた。卒業した6年生も在校生へのプレゼントにストラックアウト用のゴールを贈ってくれた。このように子どもたち自ら体を動かすことの必要性を伝えたところ、校庭で遊ぶ児童が増えた。次年度も体育の学習で運動量の確保はもちろん、学習以外でも運動に楽しむ機会を増やしていく。

改善策③ 学校参加を通して地域をつくる

令和6年度、保護者の方や地域の方を巻き込む形での教育活動、学校への参加を増やしてきた。個々の子どもの成長を見るだけでなく、クラスや学年の集団としての成長を見ていたとき、「中丸小でよかった」と安心していただけたことが多い。

次年度はさらに、保護者の方や地域の方が主体的に、中丸小学校の教育活動に参加することで、よりよい中丸小、よりよい野沢・下馬地域をつくっていくという機運を醸成する。

子どもたちにとって、教職員にとって、保護者の方・地域の方にとって、より一層のウェルビーイングを実現できる中丸小となるように年度途中でしたが、秋のスポーツ大会、地域との交流会、お別れスポーツ大会、全校児童が一堂に参加する6年生を送る会など新たな教育活動を組み入れました。学校関係者評価アンケート以降に実施いたしましたが、子どもたち、参加された地域の方や保護者の方からは、大変よかったです、また行ってほしいと高い評価をいただいております。

改善策も反映させた令和7年度の教育活動については、3月27日にすぐーるで、「学校だより3月特別号」としてお伝えいたしました。今後とも中丸小学校の教育活動への御理解御協力を賜りますようお願い申し上げます。